

第5回 蕨市アウトメディア推進大会

中央東小学校 養護教諭 新井 祐衣

蕨市では、電子メディアへの接触時間を減らし、未来を担う子ども達の健やかな成長を願う「蕨市アウトメディア宣言」を制定し、その取り組みを広げる活動をおこなっています。本年度は、平成27年11月28日（土）に第5回蕨市アウトメディア推進大会が蕨市民会館で開催されました。

蕨市アウトメディア活動報告『独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター視察研修報告』

講師：蕨市男女平等推進市民会議 副会長 成田 弘子 氏

視察研修で行われた臨床心理士 三原 聡子氏の講演を中心に報告がありました。

三原氏の講演の中で話しがあったインターネットゲーム障害診断基準（DSM-5）の説明がありました。

久里浜医療センターは、日本で最初のインターネット依存専門診療を開始した機関であること。その中で治療対象の多くは、1日16時間以上スマホやパソコンをやり続ける『ネトゲ廃人』（ネットゲーム廃人の略）と呼ばれる若者達であり、診療は予約制のため、毎日、全国各地から電話が絶えず、予約は5か月先まで埋まっているという現状に驚きました。

講演『なぜ子どものネットトラブルが起こるのか？』～ネットセキュリティ第一線の現場から～

講師：IPAセキュリティプレゼンター/ITコーディネータ/株式会社カスペルスキー

西郷 圭一 氏

講演では西郷 圭一氏から、“子供が安全に成長し、大人として社会で生きていくためにどんなことに気をつけたらいいのか”という視点からお話をいただきました。

平成26年に行われた『子どもとメディアに関する意識調査（親の心配）』では、1位「ネットによるいじめ」2位「犯罪に巻き込まれる」3位「勉強や授業に集中できない」という結果であったことから、10年前には殆どなかった『ネットによるいじめ』が全体の5割近くを占めており、子供を取り巻くネット環境の変化を知ることができました。この調査で判明した“親の心配”の多くは“ネット依存がなければ起きないもの”だというお話でした。



この調査で判明した“親の心配”の多くは“ネット依存がなければ起きないもの”だというお話でした。

【子どもだけでなく大人も常に考えて欲しいキーワード 3つ】

① 時間

依存症になることで失われる最大のものは時間である。

② 友達

“友達”の意味が変わってきている。

オンラインゲーム、SNSなどのネット上の友達は“友達”ではない。個人情報載せない。会わない。

③ 無料

なぜ、無料で利用できるアプリがあるのか。無料の意味を考えるべき。

キーワードの1つである“無料の意味”のお話のなかでは、財務省が作成した再現を含んだビデオをご紹介いただき、視聴しました。内容は無料アプリをインストールするとアプリが勝手にスマートフォン内のデータを外部に送信し、個人情報等が流出してしまうというものでした。西郷氏の『無料の意味を考え、覚悟した上で使用しなければならない。なぜ無料アプリを作っている会社に儲けがあり、社員に高い給料を支払えるのかを考えたことはあるか。個人情報は高く売れる。』という言葉に聴講者からは驚きの声が漏れていました。

ネットの世界では、子供だからといって甘やかしてはくれません。ネットが原因となって金品を取られたり、暴力を受けたり、性的な被害に遭うことも公になっていないだけで頻繁に起きています。被害に遭わない、遭わせないためにも、ネットは世界中の人が閲覧でき、常に狙われていると頭に置き、個人の特定に繋がる情報を載せないこと、家族や先生、専門家、警察へ相談すること、ルール・モラルを守りメディアの安全を向上させることなどが必要であるという内容でした。

今回の講演会で、大人もメディアに対する正しい知識を身につけ、子供と一緒に考える必要があるのだと改めて認識いたしました。参加者の皆さんにとっても、メディアとの付き合い方を考えるよい機会になったと思います。